付録

『世界のあいさつ集 あなたに会えてよかった』
付録小冊子

世界の挨拶のことばに関して，沢山の先生方から原稿をお寄せいただきました．
本冊子『世界のあいさつ集 あなたに会えてよかった』では，残念ながら，
ページ数の関係上全てを掲載することができませんでしたので，
付録としてここに紹介させていただきたいと思います．
本冊子と併せてぜひご覧ください．
この他の言語についても，随時サイトに掲載していく予定です．
お楽しみに！

＜目次＞

コリマ・ユカギール語（長崎 郁）…… 1
ホジェン語（李 林静）…… 2
ツォウ語・パイワン語・タイヤル語（土田 滋）…… 4
リス語（綾部真雄）…… 10
ビルマ語・パラウン語・クーイ語（イン・イン・メイ，太田ワランヤ）… 11
モンゴル語（梅谷博之）…… 15
スワヒリ語（檜垣まり）…… 16
キチュア語（山本 誠）…… 17
ティンリン語・ネク語（大角 翠）…… 18
琉球・首里方言（下地賀代子）…… 19
朝鮮語（崔 昌玉）…… 20

ＮＰＯ法人 地球ことば村・世界言語博物館

コリマ・ユカギール語のあいさつ

１．こんにちは（ひとと出会ったときの挨拶）

doroobot’e!

ドローボシェ！

２．いかがお過ごしですか?

qodo modojok?

ホド モドヨック？

３．元気です

omot’ modojo.

オモシ　モドヨ.

４．さようなら（別れの挨拶）

bostubuj!　　または　　iiluge l’e!

ボストゥブイ！　　イールゲ リェ！

５．ありがとう

pasiiba!

パシーバ！

６．これはとてもおいしいです

tuɵn naqaa omot’.

トゥオン ナハー オモシ.

７．はい

ee.

エー.

８．いいえ

ell’ee.　　または　　ɵjl’e.

エッリェー.　　オイリェ.

（長崎　郁）

ホジェン語の挨拶のことば　　李林静

協力者：尤金玉氏、尤文蘭氏

	日本語	ホジェン語 （カナ表記）	ホジェン語 （IPA 表記）
1.　ひとと出会ったときのことば（こんにちはにあたる挨拶がなく、「元気？」「ご飯食べた？」と言って挨拶をします。聞かれたほうが「元気だよ。」「食べたよ。」などと言って返事します。）	お元気ですか？	アィシ　ア？	aisi a?
	元気ですよ。	アイェ！	aiji ə !
2.　さようならの表現 （別れる時の挨拶にはいろいろなものがあります。）	家に遊びに来てね。（道端で会って、しばらく話してからお別れする時に使うことば）	ミンドゥル　ウクチャンル。	mindulə uktʃianru.
	よく帰ってね。（人の家に遊びに行ってお暇する時に主人側が言うことば）	アィジ　ウニル。	aidʒi əniru.
	よく居残ってね。（客が帰る時に家の主人に言うことば）	アィジ　トゥタル。	aidʒi tutaru.
3.　ありがとうの表現 （ありがとうにあたることばがなく、状況に応じてお礼のことばを言います）	あなたの心が優しいですね。（人から何かものをもらったり、手伝ってもらったりしたときに使うことば）	シン　ゴニシ　アイェ。	sin gɔnisi ai ə.
	なかなかいいですね。（これも人からものをもらったときに使うことば　また、日本語と同じように「ウフル。əxələ。悪いね。」と言うこともあります。）	ムラ　アイェ。	məra ai ə.

4. おいしいですね。	おいしいですね。	ジェフイドゥ　アイ。	dʒəfuyidu ai.
	うまい！	アムトゥング！	amtəŋgə !
5. はい、いいえの表現	そうです。正しい。OK。（人の意見を肯定するときに使うことば）	アチレン。	atʃirən.
	違います。（人の意見を否定するときに使うことば）	ギャー。	gia.
6. ごめんなさいの表現（ごめんなさいにあてはまることばがなく、具体的に状況を述べて、申し訳ない気持ちを表します。例えば：人にぶつかった時に、「イチシチイ。シヌウ　トゥンガラハイ。itʃiʃtʃiji. sinuwə tungalaxaji. 見えなかったからあなたにぶつかった。」と言って、相手への申し訳ない気持ちを表します。）また右のように、「悪いね」と言って謝ることもあります。	わるいね！	ウフル！	əxələ !

（李　林静）

「台湾原住民諸語におけるアイサツ言葉について」

土田　滋（2008年9月25日）

多くの少数民族の言語に、「おはよう」などのアイサツ言葉がないことは、よく知られています。小さな集落の中だけで生活してきた伝統的な社会では、村人全員がお互いのことをよく知っているのが普通ですから、いちいちアイサツなどする必要がなかったんです。

これは日本人には理解しにくいことかもしれません。でも、英語やドイツ語、フランス語、スペイン語、あるいは中国語などをご存じの方、ちょっと考えてみましょう。「いただきます」とか、「ごちそうさま」、あるいは「行ってきます」「お帰りなさい」などのように、日本ではごく当たり前のように使われているアイサツ言葉を、それらの言語で何と言っていますか？　ほうら、習ったことないでしょう？　実はないんです。「おはよう」や「ありがとう」なども同じことです。日本語や英語にあるんだから、世界中どんな言語にもあるはずだなんて思ったら大間違い。

中国語では「おはよう」は「早安(ツアオアン)！」、「こんばんは」は「晚安(ワンアン)！」と習ったぞ！　そうおっしゃる方もおられることでしょう。そう。現在では少なくとも外国人相手にはそう言うかもしれない。もうちょっと簡単に「早(ツァオ)！」はかなり使われるようになりました。が、以前はそんなことありませんでした。

「こんにちは」も中国語では「ニーハオ」と言うんだということは、日本人にもよく知られていますよね。でも、少なくとも中国人同士でこういうアイサツを交わすことは、かなり少ないのではないかと思います。以前は「ニー・ツーファン・ラ・マ」（直訳すれば「あんた、ごはんもう食べましたか？」）というのがごく普通のアイサツでした。戦乱に明け暮れる毎日の中で、ものを食べられたかどうか、食べものがじゅうぶんにあるかないかが、日常の生活でいちばんの関心事、重大事だったことを示す証拠みたいなものでしょうか。

もう５０年近くも前になりますが、フィリピンに１年半ほど住んでいたことがあります。フィリピンの国語はピリピノ語と言いますが、もともとはマニラを中心にして話されているタガログ語(Tagalog)を土台にしてできあがった言語です。標準日本語がもともとは東京の言葉を土台にしてできた事情と似ています。

このピリピノ語でも「おはよう」（マガンダン・ウマガ（Magandang umaga!））、「こんばんは」（マガンダン・ガビ（Magandang gabi!）」、直訳すればそれぞれ「美しい朝」「美しい晚」というのがあることになってはいるですが、フィリピン人同士で使われているのを聞いたことがありません。普通は「クマイン・カ・ナ？(Kumain ka na?)」、直訳すれば「あんた、もう食べたかい？」そう、中国語と同じです。「おはよう」ばかりでなく、「こんにちは」というアイサツとしても使えます。「あんた、もう食べたかい？」ときかれたからといって、正直に「まだ食べていません」などと答えてはいけない。あくまでも儀礼上のアイサツ言葉なのだから、食べていようがいまいが、「オオ、クマイン・ナ・アコ。イカウ・ナマン？（Oo, kumain na ako, ikaw naman?)」（はい、もう食べました。ところで、あんたは？）と答える。

タガログ語で「こんにちは」にはまた「コムスタ・カ (Komusta ka?)」というのもあります。でもこれは ka「あんたは」だけが本來のタガログ語で、komusta の部分はスペイン語「Como esta (Usted)? (英語の「ハウ・アー・ユー」と同じ)」から入った言い方です。ちょっとナマっていますけれど。

わたくしの言語学の恩師である服部四郎先生は、蒙古語が研究者としての出発点でした。服部先生が昭和の初期にはじめてモンゴルに調査に行って驚いたのは、蒙古語に「ありがとう」と「さよなら」という言葉がないことだったそうです（服部四郎「外国語の記述的研究について --- 蒙古語に「有難う」と「さよなら」の無い話を含む ---」『方言』6.9: 1-28 (1935)、後に『蒙古とその言語』湯川弘文社（1943）に再録)。

こういうぐあいに、世界中多くの言語で、アイサツ言葉がないのです。日本語はアイサツ言葉に満ちあふれているような印象がありますけれど、「おはようございます」にしろ「いただきます」にしろ、あるいは「さようなら」や「ありがとう」といった言葉が、いったい、いつ頃から使われ出したのでしょう？　平安朝の紫式部や清少納言の時代には、すでにそのような決まった言い方があったのでしょうか？　案外、「今朝は寒いですね」などと言っていたのかもしれません。「ありがとう」にしても「おおきに」（関西）とか「だんだん」（島根）などと地方差がかなりあるところを見ると、各地でさまざまな言い方が次第に発達してきて、やがてそのうちの一つが地方地方ごとに定着していったのかもしれません。

さて、問題の台湾原住民族でのアイサツ言葉です。ごたぶんにもれず、ここでも本來は「おはよう」も「こんにちは」もなかったと思われます。今でこそあることはありますが、どうも中国語などを参考にして、ごく最近作られたものが多いように思います。そして普通はそんな言葉は使わない。よそ向けの言葉なんですね。

わたしが 1960年代終わり頃から 70年代初めにかけて言語調査のために台湾山地に住み込んだとき、道で人が出会うと、「あんた、どこ行く？」のような言葉がごく普通に使われていました。西洋文明にどっぷり浸ってしまった私たちは、どこへ行くかなんて個人的なことは放っといてちょうだい、失礼でしょう、とついつい思ってしまうでしょうが、昔は、いや、つい昭和３０年代までは、日本でも、同じようなことを平気でアイサツとして交わしていたものです。もちろん正直に答える必要はない。「ちょっとそこまで」これでじゅうぶんだったんです。

つまり、黙っているのはどうも気まずい、何か話を交わさないと、オレはオマエが嫌いだ、という雰囲気になってしまう。何でもいいから言葉を交わさないといけません。そしてそんなときは、お天気のことや相手の今の状況を話題にするのがいちばん無難です。「こんにちは」というのが「(今日は)お天気ですね」とか「今日は(どこまでいらっしゃいましたか)」から来たのだろうということはすぐにわかりますよね。「どこへ行くのか」「どこへ行ってきたのか」と聞かれたとしても、本当は相手がどこに行くのかに興味があるわけではないのだから、正直に本当のことを言う必要もないんです。言葉を交わす、ということが大事なので、つまり、私はあんたの敵ではないんですよ、ということが伝わればそれでいい。言語学では「ファティック・コミュニオン（phatic communion)」、つまり「社交的（交感的）言語使用」などと呼んでいますが、人間の言語の大きな特徴の一つとされています。いわば、猿の世界における「グルーミング」にあたるものと言え

ます。だからこそ、本來持っていたはずの意味がどんどん失われて、一種の記号としてしか働かなくなってくる。英語の「グッバイ (Good-bye)」だって、もとは「God be with you（神があなたと共にありますように)」という意味だったなんてことは、もはや誰にもわからなくなってしまっています。わからなくていいんです。単に別れるときの合図なんですから。「グッバイ」がさらに縮まって「バイ」、さらには幼児語っぽくダブらせて、「バイバイ」となってしまっても、一向にかまわない。

そういうわけですから、現地調査では、そのようなアイサツ言葉をあえて積極的に調べようとはしませんでした。なにしろ現地調査するには時間とお金がかかる。現地の人が、はて、「おはよう」というのは何と言えばいいだろう、などと考え込んでしまうかもしれないことは、なるべくなら避けてすませたい。そんなことを調べるのなら、その前に調査しておかなければならないもっと重要な事柄がたくさんあったからです。そしてそういうアイサツ言葉がどうしても必要なときには、日本語や中国語を使っていました。台湾では、とくに山地では、年配の人は日本語が達者だし、若い人たちは中国語、ときには英語が上手ですから、事実上、何の問題もありませんでした。

そこで以下に述べるツォウ語とパイワン語とタイヤル語のアイサツ言葉も、2000 年以降に作られた初級用教科書に載っている表現から借りてきました。そこに見つからない表現は、しかたがない、空欄のままです。この初級用教科書はネットにアクセスすれば、自分の耳で聞くこともできますから、興味を持たれた方は、ぜひ聞いてみてください。たどたどしい子供の声で先生と挨拶を交わしているのが聞こえます :

ツォウ語：http://140.119.44.112/alcd/132/ch1.html
パイワン語北部方言：http://140.119.44.112/alcd/112/ch1.html
タイヤル語スコレック方言：http://140.119.44.112/alcd/116/ch1.html

台湾原住民諸語は全部で２０近い言語があるのですが、ここにはほんの３言語しか取り上げていません。これらの言語はどれも同じ系統のオーストロネシア語族 (Austronesian) という言語家族 (language family) に属している言語なのですが、ご覧の通り、えーっ？　どこが同じなの？というくらいに違うことがわかるでしょう。

皆さんもツォウ語、パイワン語、タイヤル語の例文を見ながら、どの部分が何の意味を表しているのか、ちょっと考えてみてください。自分が知らない言語を調査するときと同じように、謎解きの魅力にきっととりつかれると思いますよ。がんばって！

ツォウ語のアイサツ言葉

ツォウ語は台湾中部、嘉義縣達邦鄉に約６千人の人たちによって話されている言語です。嘉義から阿里山森林鉄路に乗って阿里山まで行くとツォウの人々に出会えます。台湾原住民諸語の中でも習得するのがいちばん難しい言語です。

その前にツォウ語の発音のことを少しだけ触れておきましょう。

正書法では母音は６つ：a, i, u, e, o, U ;

子音は１６個： p, b, t, l, k, ', c, f, v, s, z, h, y, m, n, ng。

このうち、U は「中舌平口高母音」で、音声記号で書けば i にハイフンを真ん中に引いたような記号です。日本人には「ウ」と聞こえるでしょう。ところが台湾原住民にかぎらず、フィリピン、インドネシアなどオーストロネシア諸語のほとんどの言語で u と U の二つは別の音として区別されている音なので、注意が必要です。

子音の b, l はどちらもちょっと喉に引っかかる前声門化された b と d なのですが、正書法上ではどういうわけか d ではなく l で書きます。どうも中国語を母語とする人には l に近く聞こえるらしいのです。ですから l で書かれていても実際には d の一種です。するとこのツォウ語は l も r もどちらもない、世界的にもやや珍しい言語に属すると言えますね。

c は [ts]。

' は声門閉鎖音、日本語で驚いたときに「あっ！」と言う、その最後のところに出る、喉をつめる音です。これもオーストロネシア諸語ではごく普通に使われる音で、Hawaii「ハワイ」というのも Hawai'i「ハワイ'イ」というのが本当のハワイ語の発音です。あ、そうそう、ハワイ語もじつはオーストロネシア語族の１員ですから、台湾原住民諸語の遠い親類ということになります。（信じられますか？　でもちゃんと言語学的に証明できます、ここには書ききれませんけれど。）

おはよう　「ミコ・ウムヌ（miko UmnU)」
【「ミコ」は「あなたは～である」、「ウムヌ」は「好い」、つまり中国語の「ニー・ハオ」の訳である。】
こんにちは（ひとと出会ったときのことば）　「ミコ・ウムヌ（miko UmnU)」
こんばんは　「ミコ・ウムヌ（miko UmnU)」
お元気ですか　「ミコ・ウムヌ（miko UmnU)」
さようなら（また会えますように）　「ブメメアッドゥ(bumemealU)」
ありがとう　「'アヴェオヴェオユ ('aveoveoyu)」
おいしいですね　「マフェ（mafe)」
はい　「ゾウ（zou)、'ア（'a)」
いいえ　「オ'ア（o'a)」
ごめんなさい

これは何ですか　「ゾウ・ツマ・エニ（zou cuma eni?)」
これは机です　「'ア・パンカ・エニ（'a pangka eni)」
あれは何ですか　「ゾウ・ツマ・シツォ（zou cuma sico?)」
あれは私の本です　「トゥポス'ウ・シツォ（tposU'u sico)」

パイワン語のアイサツ言葉

パイワン族は台湾南部の屏東縣、高雄県に約８万人の人によって話されている言語です。かなり広い地域に話されているので、方言差もかなりあります。日本人だったら、そう、屏東縣北部の三地門にある「原住民文化園区」に行く機会があるかもしれません。ですから、ここにはパイワン語北部方言を例にとることにしましょう。この他に、台湾最南端の墾丁公園や鵞鑾鼻方面に向かう方もいらっしゃるかもしれません。そうすると南部方言になります。あるいは東海岸の台東まで行くと、今度は東部方言が必要です。台湾は小さい、狭いと思うかもしれませんが、こうしてみると、けっこう差があって大きい島だということがわかります。

またパイワン語の発音について少しだけ。

パイワン語の母音は a, i, u, e の４つだけ。e はツォウ語で説明した U と同じ「中舌平口高母音」です。ここでも u と e は違う母音ですから注意。

子音は p, b, t, d, dr, tj, dj, k, g, q, ', c, v, s, z, h, m, n, ng, r, l, lj, w, y の２４個。

dr は巻き舌音、tj, dj, lj は口蓋化音、c [ts]、r は震え音、l は弾き音。ツォウ語と違って r, l, lj の３個のラ行音があるし、k と奥よりの k、つまり q の区別もあるから、日本人にはとても発音が難しい。

おはよう　「ナスリヴァッ・スン (nasuljivat sun)」
【nasuljivat「やすらかな、平安な」】
こんにちは（ひとと出会ったときのことば）　「ナスリヴァッ・スン (nasuljivat sun)」
こんばんは　「ナスリヴァッ・スン (nasuljivat sun)」
お元気ですか　「ナスリヴァッ・スン (nasuljivat sun)」
さようなら（また会えますように）　「ガリュ・イ・ジャラン (galju i djalan)」（去る人に対して）
【「ガリュ」は「ゆっくり～しなさい」、「ジャラン」は「道」の意味で、これも中国語の「慢走」の意訳。残る人に対して何というのか、残念ながら不明。】
ありがとう　「マサル (masalu)」
おいしいですね　「サグアック (sanguaq)」
はい　「ウイ (ui)」
いいえ　「イニ (ini)」
ごめんなさい

これは何ですか　「アヌマ・ヤ・タ・イツ (anema ya ta icu?)」
これは机です　「ツクイ (cukui)」
【ツクイは日本語「机」。エがないからイと発音されてしまう。】
あれは何ですか　「アヌマ・ズア (anema zua?)」
あれは私の本です　「ク・スナッチュ・ア・ズア (ku sunatj a zua)」

タイヤル語（アタヤル語）のアイサツ言葉

タイヤル語は台湾北部の台北縣、苗栗縣、新竹縣、宜蘭縣に広く話されている言語で、それだけに方言差も大きいのですが、台北から地下鉄とバスを乗り継いで１時間ほどで着く温泉地・烏來（ウライ）にいらっしゃる日本人は多いでしょう。台湾原住民族の歌や踊りや食べ物を見たり聞いたり食べたりすることができるし、その上、温泉にちょっと入ることもできる。ですから、台湾北部山地で広く話されているタイヤル語スコレック方言をあげておきます。「ウライ」という地名もタイヤル語で「温泉」を意味する単語で、それに漢字を当てはめただけですから、ついでに覚えておきましょう。もう一つ大きな方言群にはツオレ方言 (c'ole) があります。スコレックもツオレも語源が同じ「人」を表す単語なんですが、語源が同じだって？　というくらいに違いますよね。

タイヤル語の発音も少し難しいです：
p, t, k, q, ', c [ts] b, s, z, x, g, h, m, n, ng, r, l, w, y;
i, e, a, u, o。
このうち q は k より奥で発音してください。' は喉につまる音、x はドイツ語の ch （バッハ Bach）の音。

おはよう　「ロカッハ・ス・ガ (lokah su ga?)」
こんにちは（ひとと出会ったときのことば）　「ロカッハ・ス・ガ (lokah su ga?)」
こんばんは　「ロカッハ・ス・ガ (lokah su ga?)」
お元気ですか　「ロカッハ・ス・ガ (lokah su ga?)」
さようなら（また会えますように）　「スガガイ・タ・ラ (sgagay ta la!)」
ありがとう　「マホワイ・ス・バライ (mhuway su balay!)」
おいしいですね　「ビラック・ニェーコン (bilaq niqun)」
はい　「アウ (aw!)」
いいえ　「イヤット (iyat!)」
ごめんなさい

これは何ですか　「ナヌ・カニ・ヘヤ (nanu qani heya?)」
これは机です　「ヘヤ・ガ・ハンライ・ブルワン (heya ga, hanray brwan)」
【「ハンライ」は日本語の「飯台」、「ブルワン」は「書く・書いたもの(biru)＋所(-an)」、つまり「書く台、机」です。】
あれは何ですか　「ナヌ・カサ・ヘヤ (nanu qasa heya?)」
あれは私の本です　「カサ・ガ・ビル・マク (qasa ga, biru maku)」

（土田　滋）

リス語（タイ北部）の挨拶　（首都大学東京・綾部）

■対象言語　タイ北部のリス語（山岳地帯に住む少数民族）

○おはよう

フワフワ xwa xwa（あるいはフワフワ・ングオ？xwa xwa nguo＝疑問文）

＊ただし、フワフワは直接的には「お早う」という意味ではなく、時間に関係なく人と会った時の“キリスト教徒”の挨拶として使われます。非キリスト教徒の通常のリスには、「おはよう」「こんにちは」等に直接相当する言葉はありません。

○こんにちは

フワフワ

＊ただし、非キリスト教徒はフワフワではなく、「アラギア？ala ghia（どこに行くんだい？）」もしくは「ザザウオ？za za uo（食事は済んだかい？）」という表現をあいさつ代わりに使うのが一般的です。

○こんばんは

フワフワ

＊上記説明に同じ。

○お元気ですか

フワフワ・ングオ？　もしくは　アリカー？alikaa（「いかがですか？」の意）

○さようなら

フワフワ　もしくは　イギョ・ンガアーigyo ngaa（「もう行くね」の意）もしくは
シシアティ・ンガアーshishia thi ngaa（「元気でお過ごしください」の意）

○ありがとう

アクブモ akhw bumo

○おいしいですね

アク・ザミャ akhw zamya

○はい／いいえ

ング／マ・ンガア ngu / ma nga

○ごめんなさい

トゥキュ thu khyu

※初対面のリス同士が出会った時の定型的会話については、すでに「地球ことば村」の HP 掲載した綾部のエッセイに載っていますのでご参考ください。

（綾部真雄）

（地球ことば村事務局　注）

綾部先生のエッセイは以下の URL からご覧いただけます。

地球ことば村・世界言語博物館 ＞ 世界言語博物館 ＞ ことばと世界 ＞ 世界のことば ＞ リス語 「誰の息子だい？」

http://www.chikyukotobamura.org/muse/low050803.html

ビルマ語、パラウン語、クーイ語の簡単な挨拶

1　ビルマ語の挨拶

ビルマ語 (Burmese)

地域　　ミャンマー

系統　　Burmese < Tibeto-Burman < Sino-Tibetan

協力者　イン・イン・メイ (Yin Yin May)

(東京外国語大学外国語学部東南アジア課程ビルマ語専攻非常勤講師)

(1) min　gə　la　ba　　(低平調) (軽声音) (低平調) (低平調)

ミン　ガ　ラ　バー

「おはよう、こんにちは、こんばんは」(‘Hello’)

(2) ʔeiʔ　　dɔ.　(声調なし) (下降調)

エィッ　ドォ

「おやすみなさい」(‘Good night’)

(3) ne　　kaun:　la:　　(低平調) (高平調) (高平調)

ネー　カゥン　ラー

「お元気ですか」(‘How are you?’)

(4) θwa:　　dɔ.　mɛ　　(高平調) (下降調) (低平調)

トゥアー　ドォ　メェ

「さようなら」(‘Good-bye’)

(5) ce:　　zu:　　tin　　ba　　dɛ (高平調) (高平調) (低平調) (低平調) (低平調)

ヂェー　ズゥー　ティン　バー　デェ

「ありがとう」(‘Thank you’)

(6) sa:　lo.　kaun:　dɛ　　(高平調) (下降調) (高平調) (低平調)

サー　ロォ　カゥン　デェ

「おいしいですね」(‘Delicious’)

(7) houʔ　kɛ.　　(声調なし) (下降調)

ホッ　ケェッ

「はい」(‘Yes’)

(8) hin. ʔin: (下降調) (高平調)
ヒィン イン
「いいえ」(‘No’)

(9) mə tɔ lo. ba (軽声音) (低平調) (下降調) (低平調)
マ トォ ロォ バー
「ごめんなさい」(‘Sorry’)

2 パラウン語の挨拶

パラウン語 (Palaung) (ミャンマー北部のナムサン方言)
地域 ミャンマー、タイ、中国
系統 Palaung < Mon-Khmer < Austroasiatic
協力者 イン・イン・メイ (Yin Yin May)
(東京外国語大学外国語学部東南アジア課程ビルマ語専攻非常勤講師)

(10) hə mɔ mi jɤː^{ʔ}
ハ モー ミー ユ
「どちらから (いらっしゃいましたか)？」(‘Where have you been?’)

(11) hə mɔ mi lɑh
ハ モー ミー ロォ
「どちらへ (いらっしゃいますか)？」(‘Where are you going?’)

(12) mi khyəm sa kɔ
ミー キャム サー コォ
「お元気ですか」(‘How are you?’)

(13) ʔɔ lɑh jɑ^{ʔ} ʔe^{ʔ}
オー ロォ ヨッ エッ
「さようなら」(‘Good-bye’)

(14) rɑ^{ʔ} mi
ロッ ミー
「ありがとう」(‘Thank you’)

(15) sə ŋɛh
サ ゲェー
「おいしいですね」(‘Delicious’)

(16) mɤh ʔeʔ
ムゥ エッ
「はい、そうです」(‘Yes, it is’)

(17) ka mɤh
カ ムゥ
「いいえ、違います」(‘No, it isn’t’)

(18) ʔɔ lut mi
オー ルッ ミー
「ごめんなさい」(‘Sorry’)

3 クーイ語の挨拶

クーイ語 (Kuy, Kuay) (タイ東北部スリン県ターモーム村のクーイ語)
地域 タイ、ラオス、カンボジア
系統 Kuy < Mon-Khmer < Austroasiatic
協力者 太田 ワランヤ (Waranya OTA)
(東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程)

(19) cɔː ruː naː
ヂョー ルー ナー
「どちらから (いらっしゃいましたか)？」(‘Where have you been?’)

(20) cia naː
ヂア ナー
「どちらへ (いらっしゃいますか)？」(‘Where are you going?’)

(21) bɯːn mai caː dɑːi klaːh / təŋai / təbɯː
ブーン マイ ヂャー ドォーイ クラーィ タガイ タブー
「朝 / 昼 / 晩ご飯は何ですか？」(‘What do you have for breakfast / lunch / dinner?’)

(22) səŋʔɑːp səmpɑː ʔiŋ
スンオーッ スンポー イン
「お元気ですか」(‘How are you?’)

(23) cia læːu dʌː
ヂア ラーウ ダー
「さようなら (もう、行きますね)」(‘Good-bye (I’m leaving)’)

(24) ʔɛm　ʔiŋ

エム　イン

「おいしいですか？」(‘Is it delicious?’)

(25) ʔɛm

エム

「おいしいです」(‘Delicious’)

(26) caː　/　baːt

ヂャー　バーッ

「はい。(女性が話す / 男性が話す)」(‘Yes (for women / for men)’)

(27) thæ̤ːʔ

テーッ

「いいえ」(‘No’)

（イン･イン･メイ, 太田ワランヤ）

（ことば村事務局 注）

なお、後日、パラウン語の分布に関して、より詳細な情報をお寄せいただきました。

パラウン語は、ミャンマー、タイ、中国の一部で話されています。

具体的には

ミャンマーのシャン州北部、シャン州南部、シャン州東部、カチン州、
タイ北部のチェンダオ（難民として流れている場合が多い）、
中国の雲南省

などで話されているとのことです。

モンゴル語のあいさつ

こんにちは（相手が一人の場合）

Сайн байна уу? サェン　バェノー

こんにちは（相手が複数の場合）

Сайн байцгаана уу? サェン　バェツガー　ノー

ありがとう

Баярлалаа. バヤルララー

どういたしまして

Зүгээр. ズゲール

ごめんなさい・すみません

Уучлаарай. オーチラーライ

さようなら

Баяртай. バヤルタェ

（梅谷博之）

スワヒリ語の挨拶

Habari？　ハバーリ？

（ニュース、情報、事情の意。

「いかがお過ごしですか？」というニュアンスで広く使われる）

Habari za asubuhi?　（ハバリ　ザ　アスブヒ？）

直訳「朝のニュースは？」→「おはようございます」の意。

Habari za mchana?　（ハバリ　ザ　ムチャーナ？）

直訳「昼のニュースは？」→「こんにちは」

Habari za usiku?　（ハバリ　ザ　ウスィク？）

直訳「夜のニュースは？」→「こんばんは」

Nzuri.　ンズーリ

上の四種の挨拶に対するすべてに使える答えで、

直訳すると「いいです」の意。

Hujambo?　フジャンボ？　ごきげんいかがですか？

Sijambo.　スィジンボ　元気です。

Asante.　アサンテ　ありがとう。

Nimefurahi kukuona.　ニメフラヒ　ククオナ　お会いできて、うれしいです。

Karibu.　カリブ　どうぞ。（客を迎える際、食事をすすめる際、広く使われる）

Kwa heri.　クワ　ヘリ　さようなら。

Tutaonana.　トゥタオナーナ　また会いましょう。

（檜垣　まり）

キチュア語

以下、エクアドルのカネロス・キチュア（パスタサ県、ボボナサ川流域＝アマゾンの源流にあたる地域です。キチュア語による自称は「ルナ」）のあいさつことばを紹介いたします（ただ、諸般の事情から最近は彼らの居住地域に再訪することができておらず、そのため情報は正確とは言えないかもしれません。現地で記録したノートをすべて再チェックする時間的余裕もございませんので、記憶に頼っての再現であることを申しあげておきます）。

・私の名前は○○です：「ニュカ・シュティタ・○○マン」

・おはよう/こんにちは/こんばんは：「良き朝」を意味する「アリ・ツタマンダ」や「良き日」を意味する「アリ・プンチャ」といった表現も存在するが、あまり使用されない。むしろ「どちらへ？」を意味する「マイカン・リウンギ？」と問い、「カイビ（このへん）」とか「アワマ（上流に）」、「ウライマ（下流に）」などと答えることが多い。また、訪問先の家の前で来訪を告げる場合には、（「今日は」「ごめんください」的な表現は使用せず）「ヤヤ（父親/お父さーん！）」、「ママ（お母さーん）」、「ワウキ（兄弟/アニキー！）」、などと親族名称をそのまま大声で叫ぶ。通りかかった人に呼びかける場合も同様である。また、実際には親族関係になくても「ワウキ」や「クニャード（義兄弟・これはスペイン語）」といった用語は（関係の近さを表現するため）よく使われる。外国人など、よく知らない人に向けてなら、「アミーゴ！」（もちろんスペイン語である）が使われることになる。

・おやすみなさい（夜にかわすことば）：「アスタ・マニャーナ」というスペイン語がよく使われる。

・お元気ですか：カウサンギチュ？（直訳すれば「生きていますか？」＞「どう？」くらいのかんじ。「おはよう/こんにちは/今晩は」と言うべき状況でも使える）

・さようなら：ウリウニミ

・ありがとう：デスパ・グラッチョ/パ・グラッチョ

・おいしいですね：ミシキ・アリ

・はい：アリ

・いいえ：マナ

（山本　誠）

ティンリン語とネク語のあいさつのことば

・挨拶として決まった表現はないのですが人と会ったとき一番良く使われるのは次の語です。
ティンリン語：nrîfwa （ニ(ン)ファ）「今日」、kaarrò（カーロ）「明日」、
ネク語：gina （ギナ）「今日」、âmè（ア(ン)メ）「明日」
これらの語は「またね」くらいの意味で使われます。時間の感覚がおおざっぱなのでこう言っても１週間以上会わないことも普通です。
「こんばんは」もないので、上の語の「(では）明日」を使います。

・「お元気ですか」のかわりに「(それは）良いです」を意味する次の文を用います：　ティンリン語 : nrâ harrù （ナ(ン)ハル)、ネク語・è wèja（エウェジャ)。
この harrù（ハル）「良い」という語は良いイメージのもの全て（良い、きれい、優しい、元気など）を指すので便利です。
ティンリン語、Ke fwi ne? (ケフィネ)「あなた何してるの？」という人もいます。
・「さようなら」のかわりにネク語では gèjè（ゲジェ）「あなた」ということがありますが、これは gèjè gè ve (ゲジェゲヴェ)「行け」の省略とも考えられます。
ティンリン語では fi (フィ)「行け」ということもあります。U merrejo (ウメレヨ)「(私は）寝るよ」といって去ることもあります。
・「ありがとう」はティンリン語、ネク語とも、「アーイー」といいます。アーはあいまい音。
・「おいしいですね」は、ティンリン語：　nrâ nre harrù （ナ(ン)ネハル)、ネク語・è ne wèja（エネウェジャ)。
・「はい」は、ティンリン語、ネク語とも、：　ウーン ですが、ティンリン語のウは日本語に近いウ、ネク語のウはユに近いウです。Ève (エヴェ)「それ」という語も「そう、そう」のような感じで使われます。
・「いいえ」は、ティンリン語では、trarrî （タリ(ン)）(存在しないという意味)、ネク語ではアン、エといいます（ アンとエの間は、息を詰めます ）。
・「ごめんなさい」という言い方はないのですが、悲しい知らせを聞いた時や、失望した時など、どちらの言語もアウー（ウの部分が大変高く発音されます）という感嘆詞をよく用います。

なお、ティンリン語、ネク語の（ン）は、鼻母音です。

（大角　翠）

あいさつ文　「ウチナーグチ・沖縄語(=琉球・首里方言)」

・こんにちは（ひとと出会ったときのことば）；
　ハイサイ　チューウガナビラ(男)　[haisai tʃu:uganabiɾa]
　ハイタイ　　〃　　(女)　[haitai tʃu:uganabiɾa]

・お元気ですか (目上へ)；ガンジューサ　ソーイビーミ　[gandʒu:sa so:ibi:mi]
　＊元気かい (同等・目下へ)；ガンジューイ　[gandʒu:i]

・召し上がれ；ウサガミソーレー　[usagamiso:ɾe:]

・いただきます；クヮッチー　サビラ　[kwattʃi: sabiɾa]
　ごちそうさまでした；クヮッチー　サビタン　[kwattʃi: sabitaɴ]

・ありがとうございます；ニフェー　デービル　[ɲiɸe: de:biɾu]

・さようなら（また会えますように）
　＊またねー (友人や家族への軽い挨拶)；マタヤーサイ(男)　[mata ja:sai]
　　マタヤータイ(女)　[mata ja:tai]
　＊お暇いたします (形式的な挨拶)；イトゥマグイ　サビラ　[ʔitumagwi sabiɾa]
　＊またお会いしましょう；マタ　ウイチェー　サビラ　[mata ʔwi:tʃe: sabiɾa]

＊IPA(に準じる)表記について、[:]を長音記号の代わりに用いている

○参考文献○
国立国語研究所 1963『沖縄語辞典』
西岡敏・仲原穣 2000『沖縄語の入門』白水社
高良勉 2005『ウチナーグチ(沖縄語)練習帖』NHK 出版

（下地賀代子）

［朝鮮語の挨拶言葉］

崔昌玉

朝鮮語の挨拶言葉をそれぞれ格式ばったものとそうでないものとにわけて，示すことにします。また，参考までにハングル表記もつけておきます。

１．おはようございます。こんにちは。こんばんは。
(格式)アンニョンハシムニカ? 안녕하십니까?
(非格式)アンニョンハセヨ? 안녕하세요?
２．さようなら(立ち去る人に対して)。
(格式)アンニョンヒカシプシオ. 안녕히 가십시오.
(非格式)アンニョンヒカセヨ. 안녕히 가세요.
３．さようなら(とどまる人に対して)。
(格式)アンニョンヒケシプシオ. 안녕히 계십시오.
(非格式)アンニョンヒケセヨ. 안녕히 계세요.
４．初めまして。
(格式)チョウムペップケッスミニダ. 처음 뵙겠습니다.
(非格式)マンナソパンガップスミニダ. 만나서 반갑습니다.
５．ありがとう。
(格式)コマップスミニダ. 고맙습니다.
(非格式)コマウォヨ. 고마워요.
６．ごめんなさい。
(格式)ミアナムニダ. 미안합니다.
(非格式)ミアネヨ. 미안해요.
７．はい，そうです。
(格式)イェ，クロッスミニダ. 예，그렇습니다.
(非格式)ネ，クレヨ. 네，그래요.
８．いいえ。
(格式)アニムニダ. 아닙니다.
(非格式)アニエヨ. 아니에요.
９．いらっしゃい。
(格式)オソオシプシオ. 어서 오십시오.
(非格式)オソオセヨ. 어서 오세요.

(崔　昌玉)

『世界のあいさつ集 あなたに会えてよかった』付録小冊子
2008年12月
NPO法人 地球ことば村・世界言語博物館
www.chikyukotobamura.org